

地域とのつながりを生かした学校評価

－学校経営案をベースにした自己評価－

知立市立来迎寺小学校

1 学校の概要

本校は、知立市（人口 67,760 人）の東端に位置し、歴史と文化財に恵まれた三町を学区とする歴史ある学校である。創立は碧海郡第 22 小学牛田学校として明治 6 年に、そして明治 26 年に今の来迎寺町外山の地に移り、134 年の歴史がある。

近年は、古くからの地域と新しく開発された住宅地から、子供たちが共に通う学校となっている。平成 19 年度の児童数は 571 名で、特別支援学級を含めて 20 学級の中規模校である。本校は、校訓「なかよく がんばる 優しい子」を基に、地域との交流や地域の教育的資源の積極的な活用を図りながら、教育実践に取り組んできている。

中でも昭和 59 年に、来迎寺学区地域コミュニティ推進協議会（以下「コミュニティ」）が設立され、20 数年にわたり地域・学校・保護者が一体となった様々な催しを行っている。また、来迎寺学区交通安全推進協議会（以下「交推協」）も 30 数年にわたり、地域と学校、保護者等が一体となった交通安全推進活動が続けている。

このように本校は、地域で子供を育てるという意識と、地域と共にある我々の学校という意識の強いことが大きな特徴と言える。二つの推進協議会の役員会も多く開催され、学校や児童に関する意見、進言等が多く寄せられる情報交換の場ともなっている。

2 昨年度までの本校における学校評価の歩み

(1) 外部アンケートによる評価

平成 16 年度以前の学校に対する評価は、学校での主な行事ごとに児童や保護者にアンケートを求めて、満足度調査や改善点調査などを実施していた。また年度末には、教員を対象として、記述式アンケートを実施し、反省並びに来年度への改善点などを基に、次年度の教育活動の参考にしていた。

平成 17 年度は、1 年間を通しての「振り返りアンケート」として外部アンケートを取り入れた。これは、児童（3 年生以上）（資料 1）と保護者（PTA 役員・前年度の一部を含む）（資料 2）を対象に実施し、外部評価として、学校改善のための参考にした。さらに、児童・保護者アンケートとほぼ同じ内容で、教員へのアンケート（資料 3）を行い、三者の評価結果の差異の分析から、次年度の具体的な方針や改善点を見付けようと考え、実施した。

平成 18 年度は、「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」（以下「ガイドライン」）が 18 年 2 月に示されたことにより、外部評価の概念が大きく変わり、本校においても学校評価の在り方を変えざるを得なくなった。例えば、17 年度に実施した児童、保護者へのアンケートは、「外部評価」ではなく「外部アンケート」（学校関係者評価）となり、「自己評価」のための資料の一部ととらえるように変更された。そこで、少しでも外部評価の考えに近づけるためと、児童と直接かかわることが少ない地域の役員の方々に、どのように児童や学校がとらえられているかを把握しようと考え、地域へのアンケート（資料 4）を実施した。この地域へのアンケートは、「コミュニティ」の地元三町の町内会役員、地域の代表からなる役員・理事にお願いした。

18 年度においては、以上のように 4 種類のアンケートを実施した。

アンケートの実施に当たっては、自己評価のための基礎資料項目として、①学習や勉強、②基本的生活・活動、③交遊・交流、④行事・企画の4項目を設け、それぞれに本校なりの指標を設け実施した。また、前年度との経年比較を基に評価判定を行うという考えに立ち、同じ質問内容を問うようにした。

(2) 学校関係者評価委員（外部評価委員）の選出

学校評価を行う上で、2月に公表された「ガイドライン」によれば、学校関係者による評価を「学校関係者評価（外部評価）」と位置付け、あくまでも自己評価の一部と考える必要があった。

18年度早々にまず考えなくてはならなかったことは、学校関係者評価委員の人数及び対象者の決定及び選定であった。本校では、この委員を「ガイドライン」に例示された学校評議員とし、学校関係者評価委員と兼務していただくことにした。これまでの学校評議員の構成は、元PTA会長（経営者）、学区有識者、民生児童委員、地域児童活動クラブ代表、保護者代表の5名であり、評価委員との兼務も十分可能な見識豊かな人物であると判断した。

しかし、学校関係者評価委員を依頼した学校評議員の方でも、新しい「ガイドライン」にのっとった学校評価の考えやシステムそのものについての理解は当然浸透しておらず、「ガイドライン」やパンフレット「学校評価」などを基に説明したり、話し合ったりしながら、学校評価に取り組んでいただくことになった。

(3) 学校経営案を基にした評価

これまでに述べたような考えや準備に基づき、18年度は、「ガイドライン」に沿った学校評価の実施を試みた。

基本的に学校教育活動は、4月当初に確定する「学校経営案」に基づいて、「学年経営案」・「学級経営案」が作成されるのが一般的である。したがって、学校が自己評価をする際の最終評価項目は、学校経営案に集約されるべきものであり、各学級担任の下す評価は、学校が示す「1教育目標」の「(2)経営の方針」及び「(3)重点努力目標」の、詳細な個別的に評価された学校の達成状況であると判断することができる。こうした考えに立ち、本校では、校長より示された学校経営方針を基に、「重点努力目標を中心とした自己評価書」を作成することにした。「重点努力目標」は、経営方針を基に具体化された指針であり、教職員としてこの年度に各自が総力を挙げて重点的に取り組まなくてはならない教育活動である。

本校では、学校経営案の重点努力目標を基にした評価表によって職員にアンケート調査し、取組の状況を3段階で評価しようと考えた。当然、項目ごとに自由記述欄を設け、成果や改善策を自由に記入するような配慮をした。

資料5に18年度3月に実施した教員へのアンケート（学校経営案「重点努力目標」達成に向けて）を示した。また、この年度では、自己評価書の試案を作成してみたが、アンケートの結果をまとめるための十分な時間の確保と処理のための準備が整わず、試案の域を脱せないものとなってしまった。こうした原因を考えると、校内評価委員会や職員の意向をくみ、アンケートの実施時期を3月としたこと自体が、その後のシステム運用上の障害を生む結果となってしまった。つまり、年度末ということで多忙な教職員の自己評価書の提出が完了し、その結果がまとまった時は、すでに次年度が動き出した19年度の4月になっていたということである。

多忙が理由にならないということは重々分かっていたが、3月の自己評価書の提出は、学校評価システム運営上の改善の手掛かりとなった。

(4) 自己評価書の作成

本校が学校経営案を基に 19 年度早々に学校評価としてまとめたものが、資料 6 の学校経営案の「重点努力目標に関する自己評価書」である。この自己評価書は、18 年度 3 月に実施した教員へのアンケートを基に作成し、学校関係者評価委員会に提出し、学校評価を更に評価してもらうためのものである。本校の自己評価書は、学校経営案に基づき、次の五つの「重点努力目標」を評価指標の大項目とし、具体的取組を小項目とした。

評価はアンケート項目の「十分に達成」「ほぼ達成」の合計が 80%以上の場合には、目標を達成している評価点「A」とした。また、80～60%の場合が評価点「B」、60%未満は、評価点「C」とした。

また、文章表記にて「評価結果・成果と改善策」を簡潔にまとめた。その一部を示すと、下記ようになる。

- (1) 基礎・基本の定着の状況・取組
- (2) 豊かな心の育成の取組
- (3) 体力の向上の取組
- (4) 安心・安全な学校づくりの状況
- (5) 地域に信頼される開かれた学校づくりの取組

2 重点努力目標を基にした評価項目とその内容

重点目標及び具体的取組	評価点	評価結果・成果と改善策
(1) 基礎・基本の定着の状況・取組		
・体験的な学習及び問題解決的な学習を重視する。	B	教科による扱いの差をなくす努力をする。
・国語と算数を中心に少人数指導を積極的に行う。	A	担当学年は積極的な取組である。
・一人一人に応じたきめ細かな指導を展開する。	B	少人数指導などで対応したい。
・朝の活動や基礎学習の時間を通して、学力の向上に努める。	B	繰り返し学習による取組を行う。

評価指標の基となった学校経営案の項目は、経営案作成に当たって、県教育委員会義務教育課から示された項目である。そして、この項目に、知立市教育委員会の教育目標並びに指導上の重点事項を受けて、目標達成のために学校経営案で具体的な取組を掲げたものである。したがって、学校経営案に基づく自己評価書の作成は、市を単位とした市の教育評価システムにもなると考えた。

(5) 学校評価の公表

18 年度において実施した児童、保護者を対象とした学校関係者評価の外部アンケートは、その集計結果を、学校だより「くすのきだより」とホームページ（アンケート結果のお知らせ）（資料 7）とに掲載し、「ガイドライン」に示されたように、評価結果を積極的に公表した。アンケート結果を掲載した学校だより「くすのきだより」は、全保護者、区長、民生児童委員、学区市会議員、「コミュニティ」推進協議会長、市教育委員会等に配付し、地域回覧として三町の全家庭にも公表した。

この結果公表に当たっては、外部評価委員会の公表に対する意見として、「自己評価結果を何もかも公表していくことにも問題があると思われるので、特に個人にかかわることには注意を払う必要がある」との提言を得ての実施であったため、このことを十分に心に留め、細心の注意を払いアンケート結果を公表していった。

3 平成 19 年度の取組

19 年度は、昨年度までの 4 種類のアンケートを実施し、学校評価の基礎資料とする。学校経営案の「重点努力目標」の達成状況確認のために自己評価を行う。特に自己評価においては、教育目標の達成状況の評価に最重点を置き、教育実践を行っていくために立てた具体的取組内容について自己評価

を行うことにした。

そして、19年度は試案段階で終わってしまった自己評価書の作成と公表、学校関係者評価書（外部評価書）の作成と公表を重点目標として「ガイドライン」に示された学校評価システムの確立を目指すことを決め、今年度の実践に取り組むことにした。

(1) 年間計画の作成

昨年度までの取組において、学校評価システムを遂行するためには、年間計画（資料8）に学校評価にかかわることを明確に位置付けておくことが重要である。別掲年間計画からも分かるように、本校では「コミュニティ」活動を通して直接的に地域の方々の声に接する機会が多々あり、地域と共につくる開かれた学校づくりの推進に努めている。学校行事が、地域行事に優先されることも多くあり、学校やPTAの年間計画は、三町、子供会、婦人会、老人クラブなどの各種団体が活動計画を立てる前に配付されている。

そこで、学校評価にかかわる話題が提供される会議、総会等をすべて含めた、19年度の学校評価関係の年間計画を作成した。また、そこにおける学校評価の公開・報告等の内容についても盛り込んだ。

こうした評価にかかわる計画の作成は、学校評価をPDCAサイクルの元に実施するため、年間計画への位置付けなしには実施できないということと言うまでもないことである。本校のように外部の人との会議、行事の機会が多い場合は、事前に学校評価年間計画を公開しておくことが、評価サイクル運営上の重要な学校評価の公表の第一段階とも考えている。

本校においては、3月末から4月にかけて検討、立案、提案、決定される学校経営案がP（Plan）に当たる。当然、D（Do）は、4月の学校経営案が職員に示されてから始まる教育実践である。学校経営案自体の変更は、年間の中途での実施が無理なため、C（Check）の実施に際して、具体的な実践部分での改善A（Action）を取り入れることとした。

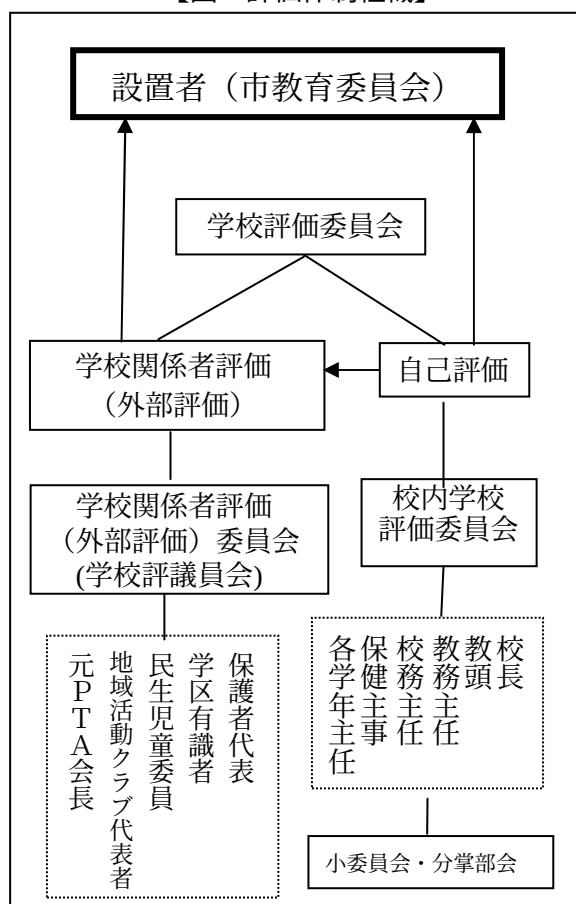
また、その時期は、2学期制を実施しているため、9月の時点をもって1回目のC（Check）をし、改善すべき点は、10月からの後期で実施していくことにした。この改善策が後半のD（Do）として行われ、1月に再度改善点を含めた2回目のC（Check）を行い、年間のA（Action）としてまとめ、次年度につなげたいと考えている。

(2) 学校評価の評価体制

評価体制として右図のような委員会組織とした。

- 学校関係者評価（外部評価）委員会…学校評議員が兼務し、5名で学校関係者評価（外部評価）を実施する。基本的には、年間3回、4月、10月、3月に会合をもち、学校が作成した自己評価書や資料を基に意見交換を行い、評価の適正を検討し、評価書を作成する（学校参観、授業参観等は随時）。
- 校内学校評価委員会…校長、教頭、教務主任、校務主任、保健主事、各学年主任の12名で構成。年3回、4月、10月と2月に実施

【図 評価体制組織】



し、アンケートの分析や改善策を具体的に考え、自己評価書を作成する。

- 学校評価委員会…外部評価者、校長、教頭、教務主任、校務主任の9名で構成。学校関係者評価書を検討しながら、改善点を話し合い、次年度の教育課程・行事を検討する。

本校の学校評価に関する組織は、ここに紹介した組織を中心に進めており、学校評価の円滑な実施を進めるに当たり、こうした組織をいかに早く立ち上げるかが重要になっている。

(3) 自己評価書の作成

19年度の自己評価書の作成に当たっては、昨年度の自己評価書試案に倣い実施することにした。すなわち、教員に学校経営案の「重点努力目標」への取組状況を自己評価アンケートとして実施し、それを基に自己評価書を作成した。さらに、各種アンケート結果を参考資料として加味した。

また、今年度は、特に教育目標に重点を置き、児童・教員・保護者が目指すものとして取り組む方針を打ち出し、自己評価書に教育目標についての評価を組み入れることとした。

資料9が、前期の自己評価書である。中間期のため、今後の実施計画にあるものを取組と考えたため、教員の自己評価アンケートは高い数値が出、自己評価も高くなっているのではないかと考えている。特に教育目標については、各教員が意識した取組を行っているので、児童・教員の意識状況、保護者・「コミュニティ」への広報状況を外部アンケートから判断した結果、良好であると考えた。

(4) 学校関係者評価書（外部評価書）の作成

学校関係者評価書（外部評価書）（資料10）は、評価者自身に取り上げた大きな項目に対して、学校関係者の記述形式による評価をまとめたものである。

18年度における学校関係者評価委員会での意見の中に、指導上の重点目標の一つ一つを評価していくための、自分たちのデータが少ないことなどを理由に、自信をもった評価ができない不安が挙げられていた。そこで、19年度は、外部評価者の観点に立ち、思い切って焦点を絞った重点的評価を行うことに決め、評価者自身に委ねることにした。そのために学校経営案の「重点努力目標」の評価は、大きな項目立てのままとし、記述式で評価項目を選択してもらうことにした。

また、昨年度の反省、評価結果に基づいて本年度に改善したことについて、評価をしていくことにした。本年度の場合は、遠足の実施、下校時の児童の安全をより考えた学年下校から定時下校への改善、校門・学校周辺フェンスの完成に伴う児童在校時の施錠について評価項目を設け、実施した。さらに、「学校行事や教育課程など学校が行っていることで、今後も継続した方がよいもの」を挙げて評価を実施していただいた。

「学校における問題点」を自由記述として挙げる項目を設け、学校が見落としていることはないか、評価・意見を頂くこととした。

学校関係者評価に当たっては、年度当初に学校への出入りは自由で、いつでもどこでも授業参観を可能にし、行事などへの案内を行い、できる限り、児童、教員の様子を見てもらえるようにした。また、評価資料として、自己評価書、児童・保護者・教員・地域の各アンケートの集計結果を随時示すように努めた。

(5) 評価結果の公表

19年度の評価結果の公表は、18年度と同様に学校だより「くすのきだより」と「ホームページ」に掲載し、公表する。また、評価結果を掲載した学校だより「くすのきだより」は、これまでと同様に全保護者、区長、民生児童委員、学区市会議員等に配付し、地域回覧として三町の全家庭に公表していくことも継続している。

「くすのきだより 10月臨時号」に前期アンケート結果を掲載し、「くすのきだより 11月号」（資料

11) には、自己評価書と学校関係者評価書を掲載した。

昨年度までは、児童と保護者の外部アンケートのみを公表してきたが、今年度は、地域アンケートを追加し、自己評価書と学校関係者評価書を公表した。公表方法としては、昨年度までのアンケート結果の公表と同じように今後も実施していく予定である。

4 学校評価における課題

本年度は、自己評価書と学校関係者評価書の作成とその公表を目標に、学校評価システムのサイクルの確立を目指して学校評価の研究に取り組んできた。

研究最終年度ということでこれまでのシステム運営上の課題を克服したつもりであったが、自己評価書の作成に当たっては、やはり「評価基準」を示していく必要がある。つまり、目標設定の時点で、段階的な達成目標を示すことにより、教育実践を評価する際の達成度がはっきりし、おのずと教員の自己評価に反映され、評価のための基準に混乱を生じなくてよくなる。こうした「評価基準」の設定の必要性は、教員へのアンケートについても同様に言えることであり、主観的な回答に頼るところを脱するためにも、具体的に示された基準をよりどころにした評価の重要性を再認識した。

しかし、実際に具体的な達成目標やその評価基準を示すには、新学期の慌ただしい期間では無理があるので、改善を図らなくてはならないが、まだ適切な時期を見定められないでいる。

また、結果の公表に当たっては、自己評価したものをすべて明示するのではなく、その年度に取り組んだ重点内容にかかわる項目に絞って評価を公表した方が、保護者や地域住民の理解を得やすいのではないかと思う。あれもこれもという考えを捨て、学校が本年度に重きを置いている取組を児童に、保護者に、地域に示し、評価をしてもらうことが大切であると考えている。少なくとも、学校評価の意義が教育活動の改善にあるということを忘れず、評価することやその結果だけに意識がいつてしまうようなことは極力避けていきたい。

これまでの2年間の研究中でも、教員間においてさえ学校評価に関する用語や定義の理解があいまいになっており、同一視点で、共通理解されていないことが明らかになった。残念ながら、本校においては、一つの言葉でも様々な解釈が教職員一人一人において行われているのが現状である。それらを統一し、共通の理解の基で自己評価を行わない限り齟齬^{そご}をきたすような学校評価になってしまうと危惧している。

学校関係者評価においても、多くの困難があった。学校評価委員の皆さんに、「学校評価」について学習していただいたり、アンケートの取り方、読み取り方などで白熱した意見交換をしたり、評価書作成までに表面に出こない活動があった。そうした委員に支えられてこの研究を進められたことに感謝するとともに、学校関係者評価委員を依頼することにも複雑な思いが課題として存在している。

今後も一つ一つが学校教育活動の改善につながることを、説明責任が果たせることなどを目標に実践研究に取り組んでいきたい。

		資料 1			
児童振り返りアンケート		19 年度前期 全体 (%)			
№	質 問 項 目	ア	イ	ウ	エ
1	学校は、楽しかったですか。	62	28	7	3
2	あいさつは、自分から進んでできましたか。	42	39	15	4
3	勉強は、よくわかりましたか。	52	40	7	1
4	先生や友達の話をよく聞きましたか。	51	41	7	1
5	授業中、進んで発表しましたか。	31	35	26	8
6	学年・学校行事は、楽しく参加できましたか。	73	23	3	1
7	予習・復習などの家庭学習は、自分から進んでできましたか。	35	38	21	6
8	そうじは真剣にできましたか。	37	44	16	2
9	困ったり悩んだりしたとき、相談できる先生や友達がいいますか。	65	23	7	5
10	なかよしの友達が、できましたか。	87	10	1	2
11	読書の時間は、楽しかったですか。	60	28	9	3
12	朝のかけ足の時間は、がんばって走りましたか。	66	26	6	2
13	授業は、楽しかったですか。	45	43	10	3
14	勉強がわからないときは、先生や友達に聞きましたか。	58	30	9	4
15	地域の人たちとお話をして、楽しかったですか。	47	39	11	3
16	係などの自分の仕事が、きちんとできましたか。	60	30	7	3
17	校訓にある「なかよく がんばる 優しい子」をめざしてがんばっていますか。	47	42	9	2

		資料 2			
保護者アンケート		19 年度前期 全体 (%)			
№	質 問 項 目	ア	イ	ウ	エ
1	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていますか。	58	35	6	0
2	お子さんは、あいさつを自分からしていますか。	34	36	27	34
3	お子さんは、授業が分かりやすいと言っていますか。	25	57	17	1
4	お子さんは、友達や先生の話をよく聞いていますか。	35	51	13	1
5	お子さんは、授業中進んで発表をしていますか。	26	30	44	0
6	お子さんは、学年・学校行事を楽しみにして取り組んでいますか。	73	26	1	0
7	お子さんは、予習・復習などの家庭学習に取り組んでいますか。	18	32	42	8
8	お子さんは、お手伝いをしていますか。	27	34	34	5
9	お子さんのことについて、気軽に先生に相談できるか。	34	51	14	1
10	学校は、命を大切にする心を育てようと取り組んでいますか。	22	58	20	0
11	学校は、豊かな心を育てようとして、読書を重視していますか。	43	48	9	0
12	お子さんは、朝の駆け足の時間に、頑張って、走っていますか。	61	31	6	1
13	学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれていますか。	13	61	25	1
14	学校公開日や各種便りにより、学校での様子がだいたい分かるか。	36	53	9	1
15	教育活動に、保護者や地域の人がボランティアとして参加していますか。	71	29	0	0
16	学校は、保護者や地域の声に耳を傾けようとしていますか。	38	52	10	0
17	学校は、校訓にある「なかよく がんばる 優しい子」を育てようとして取り組んでいるが、その取組の様子を十分に伝えていると思うか。	18	53	27	1

資料 3

教員アンケート		19 年度前期 全体 (%)			
№	質 問 項 目	ア	イ	ウ	エ
1	児童は、学校へ来るのを楽しみにしているか。	48	52	0	0
2	児童は、あいさつを自分からしているか。	14	38	38	10
3	児童は、授業が分かりやすいと言っているか。	0	81	19	0
4	児童は、友達や先生の話をよく聞いているか。	10	57	29	5
5	児童は、授業中進んで発表をしているか。	19	62	19	0
6	児童は、学年・学校行事を楽しみにして取り組んでいるか。	67	29	5	0
7	児童は、予習・復習などの家庭学習に取り組んでいるか。	5	45	50	0
8	児童は、真剣に掃除をしているか。	5	62	33	0
9	あなたは、児童のことについて、保護者から気軽に相談されているか。	11	63	26	0
10	あなたは、命を大切にする心を育てようとして取り組んでいるか。	45	50	5	0
11	あなたは、豊かな心を育てようとして、読書を重視しているか。	26	63	11	0
12	児童は、朝の駆け足に真剣に取り組んでいるか。	35	50	15	0
13	あなたは、いじめや問題行動に対して真剣に動いているか。	52	38	10	0
14	あなたは、学校での児童の様子を保護者に積極的に伝えているか。	15	70	15	0
15	あなたは、学校の教育活動に、ボランティアとして保護者や地域の人に積極的に参加してもらっているか。	20	55	20	5
16	あなたは、保護者や地域の声に耳を傾けようとしているか。	19	76	5	0
17	あなたは、校訓「なかよく がんばる 優しい子」を育てようとしているか。	52	43	5	0

資料 4

「コミュニティ」役員 アンケート		19 年度前期 全体 (%)				
№	質 問 項 目	ア	イ	ウ	エ	オ
1	子供たちは、元気に登校していますか。	67	27	7	0	0
2	子供たちは、地域であいさつをしていますか。	20	60	20	0	0
3	2学期制を実施しているが、学校だよりで地域にその様子を知らせていますか。	53	33	7	0	7
4	校訓「なかよく がんばる やさしい子」を育てようとして取り組んでいるが、その取り組みの様子を十分に伝えていますか。	47	40	13	0	0
5	子供たちの多くが、地域の行事に参加していますか。	40	40	20	0	0
6	子供たちは、学年・学校行事を楽しみにして、取り組んでいますか。	60	27	0	0	13
7	子供たちは、予習・復習などの家庭学習に取り組んでいますか。	40	40	7	0	13
8	子供たちは、家庭でお手伝いを進んでしていますか。	13	47	13	0	27
9	学校は、児童の安全で豊かな学習活動のために、環境を整えていますか。	33	53	14	0	0
10	学校は、命を大切にする心を育てようとして取り組んでいますか。	27	53	7	0	13
11	学校は、豊かな心を育てようとして、読書を重視していますか。	0	53	7	0	40
12	学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いていますか。	33	33	7	0	27
13	学校公開日や各種たよりにより、学校の様子を地域へ知らせていますが、伝わっていますか。	33	67	0	0	0
14	学校の教育活動に、地域の人や保護者がボランティアとして参加していますか。	66	27	7	0	0
15	学校は、地域や保護者の声に耳を傾けようとしていますか。	46	40	7	0	7

※オ：分からない

ア そう思う イ だいたいそう思う ウ あまりそう思わない エ そう思わない

学校評価（自己評価）教員対象
－平成18年度後期アンケート－

3：十分に達成できた 2：ほぼ達成できた 1：まだ不十分である

評価 A：3・2の合計が80%以上
B：3・2の合計80%～60%
C：3・2の合計60%未満

18年度学校経営案「重点努力目標」達成に向けて

(1) 基礎・基本の定着

	評価点	3	2	1
1 体験的な学習及び問題解決的な学習重視し、指導したか。	B	17	61	22
2 国語と算数を中心に少人数指導を積極的に行ったか。（3年生以上が回答する）	A	50	40	10
3 一人一人に応じたきめ細かな指導を展開したか。	B	17	44	39
4 朝の活動や基礎学習の時間を通して、学力の向上に努めたか。	B	17	61	22

(2) 豊かな心の育成

5 心をゆさぶり、児童の心に響く道徳の授業を展開し、豊かな心の育成に努めたか。	C	6	44	50
6 学校・学年行事や異学年交流を通して、相手を思いやる心や協力する気持ちを育てたか。	A	17	72	11
7 朝の読書や読み聞かせを通して、読書を奨励したか。	A	56	44	0

(3) 体力の向上

8 食への関心を高めるとともに、自己健康管理の基礎を培うよう努めたか。	A	28	56	16
9 自主マラソンやなわとび等を奨励し、体力づくりに努めたか。	B	39	39	22

(4) 安心・安全な学校づくり

10 安心・安全な学校生活ができるように学校・教室環境づくりに努めたか。	A	39	56	6
11 学校・保護者・地域社会と連携し、学校内・学校外の安全を守る活動を推進したか。	A	17	67	16

(5) 地域に信頼される開かれた学校づくり

12 地域の人材を「ゲストティーチャー」「教育支援ボランティア」として迎え、教育課程に生かす実践を推進したか。	A	28	61	11
13 保護者や地域に積極的に情報を発信（学級通信など）したか。	C	6	44	50
14 学校評議員・地域からの評価を生かし、教育活動の改善に努めたか。	C	0	56	44
15 PTAや地域の活動に進んで参加し、共に育て合う雰囲気づくりに努めたか。	A	17	67	16

来迎寺小学校 「重点努力目標に関する自己評価書」

平成18年度

1 教育目標 - 本校の教育目標 -

校訓、なかよく がんばる 優しい子 を基盤におき、「自ら学び、自ら進ぶ子」の育成をめざす。

めざす児童像	校 訓	具 体 的 目 標
自ら学び 自ら進ぶ子	○なかよく ○がんばる ○優しい子	・友達を大切にし、進んで挨拶をする子
		・じっくり考え、共に学びあう子
		・気力・体力を鍛える子
		・力を合わせ、汗を流して働く子
		・明るく、思いやりのある子
		・心や物を大切にする子

・教育目標に対する評価…アンケート結果を参考にし、本校の教育目標を達成して見届は取組んでいる。学校が楽しく、あいさつをしながら、勉強や運動ががんばり、友達と仲よく通している。学校行事を楽しみ、積極的に参加している。総評は、楽しく学べる学校づくりに今後努力したい。

2 重点努力目標を基にした評価項目とその内容

重点目標及び具体的取組	評価点	評価結果・成果と改善策	備 考
(1) 基礎・基本の定着の状況・取組			
・ 体系的な学習及び問題解決的な学習を重視する	B	総合など重複している教科とそうでない教科の差が大きいので、差を無くす努力をする。	
・ 国語と算数を中心に少人数指導を積極的に行う	A	担当学年では積極的な取組がなされているので、より徹底的な学習を目指していく。	
・ 一人一人に応じたきめ細かい指導を展開する	B	時間的な余裕の無さから十分に指導できないシレンマがある。少人数指導などで対応したい。	
・ 朝の活動や基礎学習の時間を通して、学力の向上に努める	B	努めているが、十分な成果に結び付かない。繰り返し学習による取組をする。	
(2) 豊かな心の育成の取組			
・ 心をゆさぶる、児童の心に響く道徳の授業を展開する	C	児童の心に響く授業をのぞいて、授業研究などで力量を高める。	
・ 学校・学年行事・異学年交流を通して、相手を思いやる心や協力する気持ちを育てる	A	すべての児童に思いやりや協力する気持ちが育つよう今後も努める。	
・ 朝の読書や読み聞かせを通して、読者を奨励する	A	読書、読み聞かせが定着してきているので、続けたい。	
(3) 体力の向上の取組			
・ 食への関心を高めるとともに、自己健康管理の基礎を培う	A	調査をこのことの輪をさらに徹底していきたい。	
・ 自主マラソンやなわとび等を奨励し、体カづくりを努める	B	体カづくりはまだ十分でないため、今後もマラソンを続けたい。	
(4) 安心・安全な学校づくりの状況			
・ 安心・安全に学校生活ができる学校環境づくりに努める	A	児童などの福祉に不安があるため、学習していきたい。	
・ 学校・保護者・地域社会と連携して、学校内・学校外の安全を守る活動を進める	A	教員自身の力でなく、地域や保護者に頼るところが多いので、今後も努力したい。	
(5) 地域に信頼される開かれた学校づくりの取組			
・ 地域の人材を「ゲストティーチャー」・「教育支援ボランティア」として、教育活動に生かす実践を進める	A	総合学習や生活科で人材を生かしてきたが、他教科にまで浸透していないので、今後は教育活動に生かすように努めたい。	
・ 保護者や地域に積極的に情報を発信する	C	学校、学年の定期的な通信に頼るところが多く、様々なメディアでの発信を考えていきたい。	
・ 学校評議員・地域からの評価を生かし、教育活動の改善に努める	C	「評価を生かす」の意味が職員に理解できていない。より理解を求めていきたい。	
・ PTや地域の活動に積極的に参加し、共に育て合う雰囲気づくりに努める	A	地域の活動には職員が参加することが少ないので、参加への努力したい。	

「評価点」について…アンケートにより「十分達成できた」「ほぼ達成できた」で8割を超えた場合に「A」、6割未満の場合に「C」

5月		6月	
1 火	学年集会① 避難訓練(火災)5限 体力検査(3年) 一斉下校	1 金	体力テスト
2 水	体力検査(2年) クリーンセンター見学(4年) こまのついで実行委員会19:00	2 土	こまのついで アロアーカーデニング準備
3 木	憲法記念日	3 日	クリーンセンター アロアーカーデニング大会(午田)
4 金	みどりの日	4 月	読み聞かせ会 かきつばた読書(6-15)
5 土	子どもの日	5 火	プール開き ぎょう虫検査 Pレク練習14:00
6 日		6 水	プール開き ぎょう虫検査
7 月	読み聞かせ① 委員会② 体力検査(1年、たんば市立)	7 木	
8 火	眼科検診13:30(4年、たんば市立、抽選)	8 金	歯の集会(1限) 緑化作業15:30
9 水	午前13:00-実行14:00 伊賀見へんきあり15:00	9 土	市P連レクリエーション大会
10 木	基礎学習 内診(6年)13:30 春の交通安全市民運動～20日	10 日	八幡町民スポーツ大会(水、30)
11 金	内診(5年)13:30	11 月	学年集会② プール開き 委員会③
12 土	市P連集会10:00中会	12 火	プール開き
13 日	市民参りかけ運動9:30 日吉神社参り10:00	13 水	学校公開日① 親子運動(2年) 山の学習説明会14:00
14 月	なかよし遊② 内診(4年)13:30	14 木	3年自転車教室(2～4限) 基礎学習 緑化作業準備
15 火	はぐみ疎通会議19:00 ペンキ塗り予備15:00	15 金	3年自転車教室予備
16 水	市P連レク練習14:00	16 土	資源回収13:00
17 木	心電図(1年、たんば市立) 基礎学習 検尿 学校安全緊急ネットワーク伝達訓練 午前11時13:30	17 日	資源回収予備日13:00
18 金	市民参り・組合19:00	18 月	なかよし遊③ 一斉下校 はぐみ疎通会議13:30
19 土		19 火	尿検査
20 日		20 水	
21 月	委員会③ 内診(3年)13:30	21 木	クラブ①
22 火	内診(3年)13:30	22 金	親子鑑賞会(①10:00、②13:30)
23 水		23 土	
24 木	基礎学習	24 日	市民スポーツ大会
25 金	こまのついで実行委員会	25 月	全校朝会② 委員会④ たんば市立(1日)
26 土	運動会 ②	26 火	たんば市立(2日)
27 日	予備日①	27 水	
28 月	代休日	28 木	クラブ②
29 火	全校朝会③ 予備日② 運動会③	29 金	
30 水	耳鼻科検診13:10	30 土	
31 木	体力テスト クラブ③ 市学校保健委員会総会14:30中会		

くすのきだより

来迎寺
小学校
5月1日

此方では子どもは変わる
校長 金田正和
子どものしつけにおいて最も難しいのは、心のしつけだと思います。その心のしつけの中心となるのは、「自立心を育てるしつけ」と「自尊心を育てるしつけ」です。今回は「自立心を育てるしつけ」について述べてみたいと思います。

本年度PTA総会の折に、次のことをお願いしました。「才能は、しかるべきときに、周りにそれを引き出す人がいて、うまく引き出されては育ちます。いかなることも、いかなる子どもでも、そのうち必要ですが、普通の子育てで大切なことは、やはり「叱る」は「褒める」と言われる通りだと思いませんか？」

このようにお話ししたからといって、決して叱つてはいけないうことではありません。日常生活の中では、叱ることも多くあると思います。厳しさの中に子どもが愛を感じるかどうかは、親の叱り方、叱る態度にかかっていると思います。叱り上手になつてほしいと思います。言葉遣いの村石昭三さんは、著書「満点ママ」：しつけの禁句とやる気の名言」(2005年)の中で

で、叱り方についての助言を次のように述べています。

叱つたあとの親の態度が大切(子どもは失敗したから悪い奴だと思われている。親は感情を吐き出して「叱らなさい」)

「お前」と「おれ」は違う(子どもは親の「お前」として説明してやる。叱るべきときは信念をもつてやる)

間違ったことをする、子どもは心を閉ざす(子どもは叱られているのかわからない。善悪の判断は子どもが納得できないように)

子どもは親の能力を無視して他人と比較しない(子どもは自分の悪いところを知っている)

悪いことをするだけじゃなく、子どもは親の長所を見つけて羨める

子どもは親の心を痛くする(小さい子どもはプライドがある。親がするのを子どもは外でまねる。悪いときには、親も怒る)

親の勝手やあせりやきやうがある。面倒がらう。真正面から答えてやる

親の一言が子どもを傷つける(子どもの心は

傷つきやすい)

・一方的な態度や、あいまいな約束は避けてよ(子どもは理由がわからなければ納得する)

・子どもの自覚を促す叱り方を(叱り方で効果にも)

・子どもの前で、他人を非難するな(子どもはとつて親のことばは絶対)

・子どもに愛を注ぎな(子どもの気持ちに無視した大人の我慢も、子どもに合った叱り方を歩ませる)

・このようなしつけの態度や言葉づかいの基本的なポイントとして、

①子どもは一つの人格を持つ存在であること
②親の態度が大切であること
③親の言葉が何らかの形で子どもにとつてプラスになるものであること

そして、「叱り上手は、自分の言葉が相手の気持ちにどう作用するか、あらかじめ計算されている。叱る本質の目的は、さくらとよとのことをわきまをきいて、叱る、必ず心を閉じて、親の言う言葉を耳を傾けるはず」と言つておられます。まったくそのとおりだと思います。

来迎寺小学校職員も、同じ気持ちで子どもたちの成長を見守つていきたいと思つてます。よろしくお願ひします。次回は「自尊心を育てるしつけ」について述べてみたいと思います。

《 アンケート結果のお知らせ 》

平成18年度末に実施したアンケート結果をお知らせします。
このアンケート結果を十分に吟味し、子どもたちの成長にとってよりよい教育活動を推進していきたいと思ひます。
ご協力ありがとうございました。

(校長)

【高ヶ丘(後期) 親子アンケート】(3年生以上を対象に実施)

親の学校生活を送り返って、下の項目に当てはまる語を口の中のア～エから一つ選んで、記号で答えてください。

質問項目	ア：そう思う				イ：どちらかといえばそう思う				ウ：どちらかといえばそう思わない				エ：まったくそう思わない			
	3年合計(%)	4年合計(%)	5年合計(%)	6年合計(%)	3年合計(%)	4年合計(%)	5年合計(%)	6年合計(%)	3年合計(%)	4年合計(%)	5年合計(%)	6年合計(%)	3年合計(%)	4年合計(%)	5年合計(%)	6年合計(%)
1 学校は、楽しかったですか。	96.4	95.8	95.9	95.9	97.0	97.9	98.3	98.0	98.2	98.2	98.8	98.4	98.4	98.5	98.8	98.5
2 あいさつは、自分から進んでできましたか。	90.5	95.8	91.9	92.0	95.4	95.8	95.2	95.8	93.0	91.1	94.8	91.1	94.8	90.0	95.4	90.0
3 勉強は、よくわかりましたか。	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6
4 先生や友達の話をよく聞きましたか。	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6
5 授業中進んで発表しましたか。	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7	98.7
6 学級・学校行事は、楽しく、参加できましたか。	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3	97.3
7 学習・宿題などの家庭学習は、自分から進んでできましたか。	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7	97.7
8 そうじは、真面目にできましたか。	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8	91.8
9 困った時頼りだしたとき、相談できる先生や友達がいっぱいいますか。	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4
10 なかよしの友達が、できましたか。	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1	98.1
11 授業の時間は、楽しかったですか。	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3	94.3
12 授業は、楽しかったですか。	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7
13 勉強がわからないときは、先生や友達に聞きましたか。	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6
14 授業などで地域のひとたちとお話を、楽しかったですか。	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4	97.4
15 保たどの自分の仕事もがんばりましたか。	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4	98.4

学校状況アンケート(後期)
【保護者(PTA役員・実行委員・幹事)アンケート】

本校の後期の現状を知るために保護者の皆様へアンケートをお願いします。評価の基準は、本校の教育活動及び全校児童の学びと育ちの状況をあなたのお子さん自身の様子やあなたの意識から判断して、下記の口内のA～Dの基準により評価して、当てはまる記号を評価欄に記入してください。

A：そう思う B：どちらかといえばそう思う
C：どちらかといえばそう思わない D：まったくそう思わない

質問項目	A	B	C	D	計
お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていますか。	52.4	37.8	9.8	0.0	100
お子さんは、あいさつを自分からしていますか。	31.7	39.0	25.6	3.7	100
お子さんは、授業がわかりやすいと言っていますか。	29.3	56.1	14.6	0.0	100
お子さんは、友達や先生の話をよく聞いていますか。	29.3	57.3	13.4	0.0	100
お子さんは、授業中進んで発表をしていますか。	15.9	45.1	35.4	3.7	100
お子さんは、学年・学校行事を楽しみにして取り組んでいますか。	57.3	39.0	2.4	1.2	100
お子さんは、予習・復習などの家庭学習に取り組んでいますか。	17.1	40.2	32.9	9.8	100
お子さんは、お手伝いをしていますか。	32.9	36.6	22.0	8.5	100
お子さんのことについて、気軽に先生に相談できますか。	22.2	59.3	13.6	4.9	100
学校は、命を大切にすることを育てようとしていると思いますか。	28.0	54.9	15.9	1.2	100
学校は、豊かな心を育てようとして、読書を重視していると思いますか。	35.4	53.7	9.8	1.2	100
学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれていますか。	12.3	66.7	18.5	2.5	100
学校公開日や各種たより(「学年通信」「くすのきだより」「くすのきタイム通信」「ホームページ」など)により、学校での様子がだいたい分かりますか。	26.8	62.2	11.0	0.0	100
学校の教育活動に、保護者や地域の人がボランティアとして参加していると思いますか。	70.7	26.8	2.4	0.0	100
学校は、保護者や地域の声に耳を傾けようとしていると思われますか。	28.0	59.8	11.0	1.2	100

平成 19 年度「学校評価関係年間計画」

知立市立来迎寺小学校

年 月	外部評価委員会等の会議	アンケートの実施	学校評価の公開・報告等	サイクル
19 4	◎PTA役員① ◎PTA役員・実行委員会① ・PTA常任委員会 ◎PTA総会 ◎学校関係者評価委員会① ◎区長会 ◎「コミュニティ」役員会①② ◎市民の誓いの会地区会議 ・学区交通安全推進協議会① △校内学校評価委員会①		◎印の会議において、前年度学校評価 及び今年度の改善点の説明を実施 △前年度学校評価分析・今年度の改善 点への取組検討	D
5	△校内学校評価委員会② ・PTA役員・実行委員会② ・「コミュニティ」役員会③ ◎防犯ボランティア連絡会議① ・「コミュニティ」総会 ・市民の誓いの会地区総会		△アンケート内容の検討 ・学校評価のアンケート結果を学校だ より・ホームページに掲載。	
6	・PTA役員・実行委員会③ ・「コミュニティ」の集い ・「コミュニティ」文化体育部会① ・「コミュニティ」調査広報部会① ・防犯ボランティア総会			
7	・PTA役員・実行委員会④ ・「コミュニティ」役員会④ ・個人懇談会	「振り返りアンケート」前期実 施〈7月上旬〉 【児童・保護者・地域・教員】		
8	・「コミュニティ」役員会⑤ ・「コミュニティ」文化体育部会②	「学校経営案による自己評価 アンケート」【教員】		
9	△校内学校評価委員会③ ◎PTA役員・実行委員会⑤ ・学区交通安全推進協議会② ・「コミュニティ」スポーツ大会 ・「交推協」学区交通安全パレード		△前期アンケート結果、中間評価実施 結果の報告と改善点の報告 ◎前期アンケート結果、中間評価実施 結果の報告と改善点の報告	C P D
10	・学校関係者評価委員会② ◎PTA役員会② ◎PTA役員・実行委員会⑥		・前期アンケート結果、中間評価実施 結果と改善点の報告、評価の実施 ◎前期アンケート結果と改善点の報告 ・前期アンケート結果を公表	
11				A
12	・PTA役員・実行委員会⑦ ・防犯ボランティア連絡会議② ・個人懇談会			
20 1	・PTA役員会③ ・「コミュニティ」調査広報部会② ・学区教育懇談会	「振り返りアンケート」後期実 施〈1月上旬〉 【児童・保護者・地域・教員】		
2	・校内学校評価委員会③ ・学校関係者評価委員会③ ・PTA役員・実行委員会⑧ ・「コミュニティ」役員会⑥	「学校経営案による自己評価 アンケート」【教員】	・後期アンケートの結果、分析を報告 ・来年度への改善点の検討	C
3	・学校評価委員会		・後期アンケートの結果、分析を公表 ・来年度への改善点の検討	P

(○内数字は、回数)

来迎寺小学校 「重点努力目標に関する自己評価書」 19年度前期

1 教育目標 一 本校の教育目標一

校訓、なかよく がんばる 優しい子 を基底におき、「自ら学び、自ら遊ぶ子」の育成をめざす。

めざす児童像	校 訓	具 体 的 目 標
自ら学び 自ら遊ぶ子	○なかよく	・友達を大切にし、進んで挨拶をする子 ・じっくり考え、共に遊びあう子
	○がんばる	・気力・体力を鍛える子 ・力を合わせ、汗を流して働く子
	○優しい子	・明るく、思いやりのある子 ・心や物を大切にする子

《教育目標に対する自己評価》	…アンケート結果を参考にして…
友達と仲良くし、挨拶を進んでしている児童が多い。 授業は楽しく受け、友達や先生の話をよく聞き、授業中も進んで発言しようとしている。分らないことは、先生や友達に聞き、勉強はよく分かると思っている児童が多い。 保護者も子どもを通して、学校の楽しさや授業が分かりやすく行われ、仲よく頑張っていることをよく理解している。朝の駆け足や掃除にも頑張っており、読書、学校行事も楽しんでいる。 今年度前半の児童の様子を見る限り、教育目標の達成に向かっていいると考える。	

2 重点努力目標を基にした評価項目とその内容

重点目標及び具体的取組	評価点	評価結果・成果と改善策	備 考
(1) 基礎・基本の定着の状況・取組			
・体系的な学習及び問題解決的な学習を重視する	A	力を入れて取り組んできた成果が、前学年になるにつれ表れ、一人一人が問題解決的な学習の力が付いてきている。	
・少人数指導を積極的に行う	B	「少人数指導授業とは」を考え、もっと効果があるような指導を工夫したい。一人一人への細かな対応ができるようにはなっていない。	
・きめ細かな指導を展開する	A	指導が必要な子に十分な時間がかけられないことがあるので時間がかけられるように取り組みたい。	
・基礎・基本の定着に努める	A	ドリル練習に力を入れて、基礎基本が定着しつつあるので、今後も続けたい。	
・朝の活動や基礎学習の時間を通して、学力の向上に努める	A	朝の活動における学習では、もう少し計画的に取り組む、学力の向上に努めたい。	
・家庭と連携し、学習の習慣化を図るように努める	A	保護者の協力の下、学習を進めているので、継続したい。	
(2) 豊かな心の育成の取組			
・心をゆさぶる、児童の心に響く道徳の授業を展開し、道徳的実践力の向上に努める	A	心のゆさぶるがある道徳の授業は十分ではない。まだまだ工夫が足りない。子どもの心に応じた工夫をさせていきたい。	
・挨拶、掃除等の基本的生活習慣や社会的規範が身に付くように努める	A	挨拶に力を入れて取り組み、身に付いてきたので、今後も継続していきたい。	
・人権感覚を身に付け、他とともに心豊かな生活を築く態度を養う	A	自分自身が人権にかかわる力が不足していると感じているので、教師に人権感覚を磨く活動をしていきたい。	
・学校・学年行事や異学年交流を通して、相手を思いやる心や協力する気持ちを育てる	A	相手を思いやる心が育つにはまだ不十分であるので、あらゆることで心を育てていきたい。	
・朝の読書や読み聞かせを通して、読書習慣を育成する	A	わずかな時間の読書でも効果が上がっているので継続したい。	
(3) 健やかな体の育成の取組			
・外遊びや業前運動（朝のかげ足）等を奨励し、自主的な体力づくりに努める	A	目標を決めて取り組む子どもが出てきたので、これからも働き掛けを一生懸命にしていきたい。	
・家庭・地域と連携して食育を推進し、規則正しい生活習慣を確立するようにする	A	「朝一飯を食ふよう」との呼び掛けを家庭にもして連携しての推進に努力してきた。その成果は上がっている。	
(4) 安心・安全な学校づくりの状況・取組			
・実践的な訓練や安全指導を通して、防犯や安全に対する自覚を育てる	A	日々の生活で実践的な安全指導を行い、防犯や安全に対する自覚ができるよう指導に心掛けた。	
・安心・安全に学校生活ができる学校環境づくりに努める	A	安全点検、門前広場など努力して安全な環境づくりに努めている。	
・学校・保護者・地域社会と連携し、児童の安全確保に努める	A	定時集団下校の実施、防犯ボランティアの協力も得ているが、安全の確保には十分とは言えないので、更なる工夫した取り組みが必要。	
(5) 地域に信頼される開かれた学校づくりの取組 平均点			
・地域の人材を積極的に教育課程に生かす実践を推進する	A	前期における活用はまだ十分ではないので、後期に期待したい。	
・保護者や地域に積極的に情報を発信する	A	ホームページなど充実してきたが、専属の担当者が必要に思う。	
・学校評議員・地域からの評価を生かし、教育活動の改善に努める	A	評価で何を期待されているかわかり切れていない場合があるので、十分に考えていきたい。	
・PTAや地域の活動に進んで参加し、共に育て合う雰囲気づくりに努める	A	地域活動やPTA活動に十分に参加できていない。一部の人の人により支えられている。	
・保護者や専門家と連携して、一人一人に応じた特別支援教育の充実を図る	A	必要に応じた支援連携を行っている。	

「評価点」について…アンケートにより「十分達成できた」「ほぼ達成できた」で8割を超えた場合に「C」

来迎寺小学校 学校関係者評価書 平成 19 年度 前期分

1 教育目標「なかよく がんばる 優しい子」に重点を置いた教育への評価

◎校長先生自ら児童の指導に当たられているようで、率先垂範が大切なことと思うので、是非継続した取組、指導をお願いしたい。また、昨年度に比べ、A評価が増えて、教員の意識が高まっていると考える。

2 「重点努力目標に関する自己評価書」への評価、意見

(1) 基礎・基本の定着の状況・取組について

- ・「少人数指導ができていない」ことが気になる。18年度は「A」評価としてできていたことが、なぜできないのか？今後の取組に配慮願いたい。
- ・取組の成果として、一人調べや問題解決学習の力が付いてきている。また、繰り返し学習の取組については、ドリル学習に、朝の学習に、自主的な学習がなされるとよい。

(2) 豊かな心の育成の取組について

- ・「心の揺さぶり」について「十分でない」という回答が多いのが気になる。工夫を期待する。
- ・異学年交流、朝の読み聞かせも継続してほしい。
- ・「あいさつ」や「清掃」などは、基本的な生活習慣の大切な項目であり、よく努力がされている。「清掃」には、自己浄化の効果がある。掃除してきれいにする。これは心の問題で、心もきれいにとということである。大事にして指導を継続してほしい。
- ・アンケート結果をみると、教員と保護者の意識に、多少ずれがあるようだ。改善を求める。
- ・いじめに関しての指導、隠れているいじめ、未必のいじめ → 親への連絡ノート等、知らせる方法を考えてほしい。家では良い子なので親が認識していない。

(3) 体力向上の取組について

- ・取組全体としては、良好であり、現状維持を願います。
- ・アンケートでは、「食育 etc.の推進に取り組めていない」という回答が多いのが気になる。A評価ではあるが、より一層の工夫を期待する。
- ・学校の体育は、遊びではなく、目標をもった授業でなくてはならない。ただ体を動かすのはいけない。例えば、準備運動は子供にやらせるのも悪いとは言わないが、今日の授業の内容に沿ったものでなければいけない。

(4) 安心・安全な学校づくりの状況・取組について

- ・安全の確保はより一層の努力を期待している。防犯だけでなく、災害時に“身を守る”知恵も指導してほしい。
- ・はぐくみ隊の方や町内の方たちの努力で大きな事件もなく幸いだが、もう少し保護者の方、一人一人の意識の向上が必要である。人任せではいけないと思う。
- ・いろいろな方面からの人に立ち入ってもらい、危険なポイントを出し、改善に努める。子供たちにもイラストや危険だと思うことを指摘させて改善に努めることを考えてほしい。

(5) 地域に信頼される開かれた学校づくりの取組について

- ・総合的な学習や生活科では地域の人材を生かし、大変成果を上げている。特に高学年では、目的意識をもち、継続的に活動している。
- ・校外との交流が、いま一つという印象を受けた。教員と地域の人々（PTAも含めて）が直接“対話”するチャンスがあるとよいのではないかと。また、「コミュニティ」活動に諸先生方も積極的に参加してもらうことも必要であろう。
- ・「くすのきだより」において学校の様子が紹介されるのは大変よい。5月号の校長先生の「^{しか}り方で子どもは変わる」という記事、そのとおりだと感動した。

3 今年度、学校で改善し、取り組んでいることへの評価・意見

定時下校（なかよし下校）	・防犯上、人間関係の構築上、大変よい取組だと思います。子供たちの成長は親だけでなく、周りの仲間からも、くみ取ることが可能だと思うことです。地域で、より一層のサポートがしてもらえるとよいですね。集団で下校させる前提には、いじめ対策が必要です。配慮を…。 ・学校から少し離れると低学年などは集団下校でなくばらばらになり、なかよし下校ではない。
遠足の実施	・大変よいと思う。楽しんでいる子供たちの声を聞きました。 ・今年は、10月1日であったが、11月ではどうか。 ・学習の内容、時期に合わせて場所の選定をされていると思うが、テーマをもたせて活動させることを推進していただきたい。
門扉の施錠	・ときたま学校の休日に施錠したままになっている門があった。大変だけど確認をし、休日には開放しておくこと。 ・難しい問題です。学校に入りたくても入れない門があることは、児童の安全を確保する上で必要ですので納得です。ただし、しっかりした案内板がほしい。 ・よいことと思う。来訪者には不便であるが、防犯第一、継続すべきである。

4 学校行事や教育課程など、学校で行っていることで、今後も継続して続けていくとよいと特に思うものへの意見

行事・教育課程などの項目	継続した方がよいと思われる意見、提言など
朝の駆け足	・前年度より改善され、先生の指導が入るようになった。 ・ラジオ体操の指導について…曲げる、伸ばす、止めるなど基本動作が不十分である。先生の方もどうかと思う。
学力テスト	・どのように発表されるか分かりませんが、実施した以上、子供たちへの指導に役立ててほしい。
遠足	・授業日数の確保で難しい点もあるかと思いますが、やはり小学校時の遠足は大きくなってからも楽しい思い出として残るので、継続実施を望みます。 ・「社会見学」ではなく、「遠足」がよい。“山歩き”のようなこともできるとよい。
オータム・フェスティバル	・児童が考えて発表する場を与えてやりたい。 ・自分たちの成果を「見ていただく」という気持ちが必要。内容には検討の余地があるかも？
親子鑑賞会	・劇等を通して、バーチャルな世界からリアルの世界を感じさせてあげること。
少人数指導	・分からないことや進捗状況に応じて、フレキシブルに対応していただきたい。
運動会	・目標に向かって進む、努力する気持ちが養えるのでいい。「競争心」も、ある程度は必要である。

5 現在の学校における問題点でお気付きのことがあれば挙げてください。

- ・安心・安全な学校づくりに影響すると思いますが、「けが・命にかかわること」「他人に迷惑をかけること」については、学校でも厳しく指導すること。
- ・「いじめ」はないですか。「モンスターペアレント」はいませんか。対策を十分にしてほしい。
- ・より多くの情報公開が望まれる。

平成19年度 前期分

◎校長先生自ら児童の指導にあたられているようで、率先垂範が大切な

◎校長先生自ら児童の指導にあたられているようで、率先垂範が大切な指導を願いたい。また、昨年度に比べ、A評価が増えて、教員の意識が

(1) 基礎・基本の定着の状況・取組 について

- ・「少人数指導ができていく」ことが気になる。18年度は「A」評価としてできていたことが、なぜできないのか？今後の取組に配慮したい。
- ・取組の成果として、一人講べや問題解決学習の力がつづいてきている。また、繰り返し学習の取組についてはドリル学習に、朝の学習に、自主的な学習がなされるとよい。
- (2) 豊かな心の育成の数値 について
- ・「心のゆきぶり」について「十分でない」という回答が多いのが気になる。工夫を期待する。
- ・異学年交流、朝の活動間も継続してほしい。
- ・「あいさつ」や「待機」などは、基本的な生活習慣の大切な項目であり、より努力がされている。「待機」には、自己浄化の役がある。掃除できれいにする。これは心の問題で、心もきれいになるということである。大事にして指導を継続してほしい。
- ・アンケート結果を見ると、教員と保護者の意識に、多少ズレがあるようです。改善を求めます。
- ・いじめに関しての指導、隠れてはいじめ、未必定いじめ → 視への連絡/ノート等、知らずする方法を考えてほしい。家ではよい子なのに校で問題という。

・取組全体的には、良好であり、現状維持を願います。

- ・アンケートでは、「食育」の推進に取り組めていない」という回答が多いのが気になる。A評価ではあるが、より一層の工夫を期待する。
- ・学校の工事は、遊びではなく、目標を持った授業でなくてはならない。ただ体を動かすのでいいやない。例えば、車庫運動は子供にやらせるのも悪いとは言えないが、今日の授業の学びにそったものでなければいけない。

- ・安全の確保はより一層の努力を期待している。防犯が

- はぐくみ隊の方や町内の方たちの努力で大きな事件もなく幸いですが、もう少し保護者の方、一人一人の意識の向上が必要である。人任せではないかと思う。
- いろいろな方面から人に立ち入りやすく、危険なポイントを出し、改善に努める。子供達にもイラストや危険だということを描かされて改善に努めることを考えてほしい。

- ・総合的な学習や生活科では地域の人材を生かし、大変

- ・校外との交流が、いま一つという印象を受けた。教員と地域の人々（PTAも含めて）が「直接」対話するチャンスがあるよいのではないかと。また、コミュニティ活動に諸先生方も積極的に参加してもらうことも必要であろう。
- ・「くすのきeday」にて学校の様子が紹介されるのは大変良い。5月号の校長先生の「此方の子どもは変わった」という記事、その通りだと感動しました。

平成19年11月1日

知立市立
来迎寺小学校

「なかくよく がんばる やさしい父、母」を目標
にがんばってくださいとお願ひしました。子ども
たちに負けないようがんばっていただいていること
と思います。家庭が共通した一つのことをおとし
て「がんばらなね」と励まし合うことをここに
国へのいききたいと考えています。

「学校関係評価書」をもとに、学校の改善点あるいは継続して取り組むことなどを検討し、取り入れられるものは取り入れ、今後との教育について、ききたいと思ひます。また、引き続き考えていくべきこと、実施に向けて努力することを念頭におき、実践していきたいと思ふ。

学校評価は、今後も研究を進め、それを児童、保護者、地域の皆さんに公開し、来迎寺小学校の教育を広くご覧いただけたらと思います」と考へて、いま

初巻の便りが北国からたらふく来たりとなり、あたかなべつ物が念なくなる頃になりました。さて、学校評議員は閑居に耽り給ふので、年がたつておぼつかず。アランの成績などじこの連絡をとってお知らせしてきましたが、今朝は、蓮花寺小生の教育の歴史努力日記についての評目のお知らせです。

「自己評価書」は、地域のア
が、二ページ
状況、今後の
に向けて
る学校教員です。現職、保護者、地域
教員のアンケートです。自己評価書をもとに
学校の様子などを見ていただいて、前掲の
取組について評価いただいたものです。中
心は、やはり「重点努力目標」です。しか
し、評価の重点として、字が「昨年度か
ら改善して進捗していること、学校行事な
どについて評価してください。ご意見をま

東京都小学校「教育目標に関する自己評価表」 19年度実施			
1 教育目標 本校の教育目標一 校訓、なほよく ねばる 進もうと 志を固め、自ら学び、自ら進歩するの資を養ふこと。			
① 自ら学び 自ら進歩する		② ねばる ③ 進もうと ④ 志を固め	(教育目標に関する自己評価) アーバン校組織事業として一 人一人の児童の個性を伸ばすこと、児童の心身の発達を促すこと、児童の 健康と安全の確保、児童の生活の向上を図る、児童の学力の向上を図る、児童の 社会性や人間性を育てることを目的とする。
⑤ 自ら学び 自ら進歩する		⑥ ねばる ⑦ 進もうと ⑧ 志を固め	(教育目標に関する自己評価) アーバン校組織事業として一 人一人の児童の個性を伸ばすこと、児童の心身の発達を促すこと、児童の 健康と安全の確保、児童の生活の向上を図る、児童の学力の向上を図る、児童の 社会性や人間性を育てることを目的とする。
⑨ 自ら学び 自ら進歩する		⑩ ねばる ⑪ 進もうと ⑫ 志を固め	(教育目標に関する自己評価) アーバン校組織事業として一 人一人の児童の個性を伸ばすこと、児童の心身の発達を促すこと、児童の 健康と安全の確保、児童の生活の向上を図る、児童の学力の向上を図る、児童の 社会性や人間性を育てることを目的とする。

「評価点」についてアンケートにより「十分達成できた」「ほぼ達成できた」で8割を超えた場合に「A」、6割未満の場合には「C」。

	・防犯上、人間関係の構築上、大
--	-----------------

定時下校（なかよし下校）	子供たちの成長は驚くほど周りの仲間からもよく取ることも可能だということ。地域で第一級のスポーツにいらしてはもらえないという。施設で下校をさせる前には、いじめ対策も必要です。保護者へ ・子供が少し離れると低学年などは緊急下校でなくともよいから、なかよし下校ではない
通達の実施	・大塚より通知。楽しみにしていた子供たちの声を書きました。 ・今年、10月1日であったが、1月ではどうか。
門衛の施設	・学校の安全、時間に合わせて場所の決定をされていると思うが、テーマを特定して活動させることを徹底していただきたい ・できたま学校の特色は施設したままになっているが同様に。大塚の訂正を認め、休日は開放しておくこと。
	・無いと希望です。学校に入りたいと人も入るが平均することは、児童の安全を確保する上にも必要であるとの理解です。ただし、しっかりと施設と管理はほしい。 ・いことと思う。来訪者は不審者などが、防犯署へ、継続すべきである。

行事・教育課程などの項目	継続した方が良いと思われる意見、提案など
--------------	----------------------

知的な方面	・前年度より改善され、先生の指導が入るようになった。 ・小学5年時の指導に比べ一歩前進。のびず、とめるなど基本動作は不十分である。 先生の方向性どおり進む。
学力テスト	・どの子にも発表される機会が与えられ、実施した以上、子供達への指導に役立ててほしい。
通算	・授業日数の確保で難しい点もあるかと思いますが、やはり小学校時代の通算は大きくなってからも楽しい思い出として残るのを、継続観望を願います。 「社会見学」ではなく、「遠足」がよい、「山歩き」のようなこともできるとよい。
オースム・フェスティバル	・児童が考えて発表する場を与えてやりたい。 ・自分たちの成果を「見ていただく」という気持ちが必要、内閣は3輪の余地があるかも？
親子鑑賞会	・劇を通して、バーチャルな世界からリアルの世界を感じさせてあげること。
小人数指導	・わからないことや迷った状況に応じてフレキシブルに対応してあげたいこと。
運動会	・目標に向かって走り、努力する気持ちが養えるのでよい。「競争心」も出る程度は必要である。

- 5 現在の学校における問題点でお気づきのことがあればお書きください。
- ・安心・安全な学校づくりに影響すると思いますが、「力加・命にかかわること」「他人に迷惑をかけること」については、学校でもきびしく指導すること。
 - ・「いじめ」はないですか。「モンスターペアレント」はいませんか。対策を十分にしたい。
 - ・より多くの情報公開が望まれる。